

## 「ミリョク × ハッケン！高校生ビジネスプラン」の提案について

笠原 明香（岐阜県図書館）

### 1. はじめに

岐阜県は、国の総合戦略である「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2015年度～2019年度）<sup>(1)</sup>を策定している。

その中で具体的な施策として挙げられている「地域の未来を担う人づくり」の項目に着目した。そこには、「学校教育、家庭教育と密接な関係にある社会教育について、その推進拠点となる図書館の施設の充実を図り、特色を活かした人材育成に取り組む」<sup>(1)</sup>と明記されている。つまり、図書館は少子化および人口減少に対応した人材育成（教育）を行うべき役割を担うことが求められているのである。

また、岐阜県図書館は「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます」<sup>(2)</sup>という使命を掲げ、図書館サービスを展開している。

本稿では、これらの戦略や運営方針等に基づき、新たな企画を提案する。

### 2. 岐阜県の教育について

岐阜県は現在、「第2次岐阜県教育ビジョン（平成26年度～平成30年度）」<sup>(3)</sup>に基づいて教育を推進しているが、中・高校入学時に年間約1,000人もの生徒が県外流出していることが大きな問題となっている<sup>(4)</sup>。

この現状を重く見た県教育委員会は、2017年7月に平成30年度（2018）より県立高校の入試改革を行うことを発表した<sup>(5)</sup>。最も大きな変更点は、全ての県立高校の通学区域（学区）を廃止し、「全県一区制」が導入されることである。従来学区制では、受験生は居住学区または隣接学区の学校しか受験できなかったが、全県一区制導入によりどこの学区の学校も受験できるようになる。一方で、進学校が集中する岐阜学区へ受験者が集中するのではないかという懸念もされている。学校側は、より一層魅力ある高校づくりを進め、特色をアピールしていかなければ、志望者を集めることは難しくなるだろう。

これらの状況を踏まえて、魅力ある高校づくりに図書館が関わることができないかと考えた。「第2次岐阜県教育ビジョン」の重点政策の1つとして、「中長期的な将来を見据えた高等学校の改革」が掲げられている。その「学校間及び地域との連携」の項目には、『「地域社会人」の育成のため、1つの高校内での教育に止まらず、高校間あるいは特別支援学校、専門学校や大学との連携等、地域の教育機関との連携を進めます。』<sup>(3)</sup>と明記されている。よって、社会教育施設である図書館も連携先に含まれると考える。

### 3. 「ミリオク × ハッケン！高校生ビジネスプラン」の提案

#### 3. 1 導入

「高校生ビジネスプラン・グランプリ」とは、日本政策金融公庫が主催し、2013年度から開催している起業教育の推進を目的としたコンテストである。

新学習指導要領のポイントになっている「主体的・対話的で深い学び」、いわゆる「アクティブ・ラーニング」の要素を同コンテストは兼ね備えているため、応募数が年々増加していると主催者は分析をしている<sup>(6)</sup>。

県内には、授業の一環ですでに同コンテストに応募をしている学校もあるが、図書館が介在することで、より充実したものとなるのが他県の事例で表れている。第16回ビジネス・ライブラリアン講習会の土井しのぶ氏の講義では、広島市立中央図書館での実践事例の報告がされた。広島市立中央図書館では、同図書館を会場に「高校生ビジネスプラン作成講座」を開催している。第2回目の応募の際は、5校が教員引率で参加をし、そのうち3チームがベスト100（応募総数1,717件）に入選したという実績がある<sup>(7)</sup>。

#### 3. 2 対象

高校と連携する事業のため、対象は「県内高校生」とし、ターゲット層は実業高校の生徒（商業、農業、工業等）に設定する。その理由は、5教科中心の普通科高校と比較し、実業高校は専門的なカリキュラムを導入しているうえ、「課題研究」の時間がある場合が多く、授業の自由度が高い。そのため、実業高校の方が「高校生ビジネスプラン・グランプリ」に取り組みやすいと考える。

また、同コンテストに応募歴のある学校へ打診をし、モデル校を設置する。

#### 3. 3 事業内容 その1「教員向けビジネス支援講習会」の実施

学校は年間を通して行事が多いため、図書館が高校に連携の提案をしてもスムーズに進まない可能性が考えられる。従って、まずは生徒と常に接している教員に図書館が行っているビジネス支援について知ってもらう必要がある。しかし、教員は授業や校務分掌、部活動等で大変忙しいため、図書館が主催する説明会だけのために出張する時間を確保することは難しいと推測される。そのため、図書館職員が出向いて2点の方法で教員への周知を図る。周知させる時期は、本事業を実施する前年度に行う。

- ① 各学校の教科主任が集まる会議（地区担当者会議、県担当者会議）で、図書館が説明する時間を設けてもらう。（15分～30分）
- ② 各学校で行われる職員研修会に図書館職員が訪問し、講習会を行う。職員研修会は考査期間中に実施されることが多く、①よりも長い時間（1時間～1時間半）を確

保できる。また、原則全職員の出席が義務づけられているため、周知させるのに良い機会である。

### 3. 4 事業内容 その2「地元のミリオク×ハッケン！講演会」の開催

日本政策金融公庫は、募集内容として下記の2点を挙げている<sup>(6)</sup>。

① 人々の生活や世の中の仕組みをより良いものに変えるビジネスプラン

② 地域の課題や環境問題などの社会的な課題を解決するビジネスプラン

よって、ビジネスプランを作成する前に、自分が住む地元について充分知らなければ良いアイデアは生まれないと考える。また、郷土愛を育むことも重要である。

法政大学大学院政策創造研究科教授の坂本光司氏は、2017年9月11日に札幌商工会議所（金融・サービス部会）主催で開催された講演会の際、人を大切にする経営をしている良い企業の一つとして、未来工業株式会社（岐阜県安八郡輪之内町）を挙げていた。また、坂本氏の著書『小さくてもいちばんの会社 日本人のモノサシを変える64社』<sup>(8)</sup>では、日本ウエストン株式会社（岐阜県岐阜市柳津町）を紹介している。2社とも人を大切にする経営学会が主催する「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞で受賞実績のある企業である。

さらに、ビジネス・ライブラリアン講習会の講義の際、竹内利明氏はビジネスに関する知識を高めるテレビ番組として「カンブリヤ宮殿」を挙げていた。2017年9月21日に放送された同テレビ番組では、今日本で一番高くて美味しいお米として、岐阜県産の「いのちの壺（龍の瞳）」を紹介していた。

このように、岐阜県には、大企業でなくても日本全国に誇れる中小企業や農業があることを高校生に知ってもらうため、モデル校で県内の企業家による講演会を開催する。県内商工会議所と連携をし、他にも活躍している県内企業を紹介してもらい、モデル校へ講演会の講師として派遣する。企業家の生の声を聞くことで、ビジネスの視点でものを考える力を養う良い機会になると考える。

### 3. 5 その3「出前！高校生ビジネスプラン作成講座」の開催

同コンテストに応募するための「高校生ビジネスプラン作成講座」は、図書館職員が学校へ訪問する「出前」というかたちを取る。その理由は、岐阜県図書館は今年度より課題解決を求めているところへ積極的に出向いて支援をする「能動的課題解決支援」<sup>(9)</sup>への転換を図っているためである。

出前講座の1コマ目は、日本政策金融公庫と連携をし、モデル校で出張授業を行う。2コマ目は、ビジネス支援関連のデータベースの使い方を図書館職員が生徒にレクチャーする。図書館で実施する場合は、契約しているデータベースは不自由なく使用できるが、本事業は出前講座のため、学校内では使用することが難しい可能性が考えられる。そのため、

データベース運営会社と別途契約をし、その日限りのワンタイムパスワード等で使用できるデータベースを想定する。

3 コマ目の「ビジネスプラン作成ワークショップ」は、公益財団法人岐阜県産業経済振興センターと連携をし、同センターに講師を依頼する。各学校で本事業に確保できる授業時間数が異なる場合が考えられるため、学校の事情に合わせて実施回数を設定する。より良いビジネスプランを考え、地域が抱える課題の解決に結びつけるには時間を要するため、次年度に同コンテストに応募する。

岐阜県には12学級以上の県立高校に正規で専任の学校司書が1名配置されているという強みがあるため、出前講座を行う際は、各学校の学校司書とも連携する。学校図書館の蔵書の特徴を教えしてもらい、授業での図書館利用等についてサポートをしてもらう。また、商品開発や起業、農業、食品、工業等のテーマを設定し、高校生が理解しやすいビジネスに関連する図書を「セット文庫」としてモデル校へ団体貸出を行う。

### 3. 6 事業スケジュール（案）

内容	実施時期	担当（講師）
県教委との協議（事業説明、モデル校の選定等） 県内公立高校および私立高校へ周知	前年度	岐阜県教育委員会 知事部局環境生活部私学振興・青少年課
教員向けビジネス支援講習会① （地区担当者会議、県担当者会議）	前年度	図書館職員
教員向けビジネス支援講習会② （職員研修会）	前年度	図書館職員
地元のミリョク×ハッケン！講演会	実施年度 5月	県内で活躍している企業家 図書館職員
出前！高校生ビジネスプラン作成講座 「事例紹介、アイデア発想法」	6月中旬	日本政策金融公庫 図書館職員
出前！高校生ビジネスプラン作成講座 「データベースの使い方」	6月下旬	データベース運営会社 学校司書、図書館職員
出前！高校生ビジネスプラン作成講座 「ビジネスプラン作成ワークショップ」	7月～	岐阜県産経センター 学校司書、図書館職員
「高校生ビジネスプラン・グランプリ」応募	次年度9月	

### 3. 7 予算案（概算）

事業内容	要 求 額（千円）					
	合計	報償費	旅費	需用費	使用料	備品購入費
教員向け講習会	75	0	21	54	0	0
ミリョク×ハツ ケン！講演会	131	90	41	0	0	0
出前講座	1,875	90	210	0	375	1,200
関係先連携	100	0	0	100	0	0
合計	2,181	180	272	154	375	1,200

### 3. 8 事業効果

「高校生ビジネスプラン・グランプリ」において実績づくりをすることで、その学校の価値を上げ、魅力ある学校をアピールしていければ、中学生の県外進学を防ぐ一助になり得ると考える。

高校生が地域の歴史や特徴等を学ぶことで、自分の地元に対して誇りや愛着が生まれ、郷土愛を育むことにつながる。また、地域の課題を掘り起こし解決につなげるビジネスプランを作成し、実践していくことで地域の活性化につながることを期待できる。

### 4. 図書館が実施することの必然性・強み

図書館には「ひと・もの・情報」の3点が揃っていることが、本事業を実施する必然性である。

(ひと①) 資料の活用方法、情報検索に長けた司書の存在。

(ひと②) 図書館には学校での経験豊富な教員が配属されている。

(ひと③) 12学級以上の県立高校に正規で専任の学校司書が配置されている。

(もの) 約100万点の図書や、約15万点の地図等の資料を所蔵している。

(情報) 岐阜県図書館では、17種類のデータベースを利用できる。

### 5. 終わりに

本稿では筆者が4年間、学校司書として2校の高校に勤務をした経験を踏まえて提案をした。

坂本光司氏は同講演会で、「人を大切にする良い会社は、ゆっくり着実な年輪経営を行っている」と話された。これは、まさに教育にも同じことが言えるのではないか。目先の効果や利益だけにとらわれず、じっくり時間をかけて丁寧な教育を行うことに、図書館も積極的に関わっていけば、何十年後かに良い成果が生まれると予想する。

また、同講習会で講師を務めていた豊田恭子氏から ALA（アメリカ図書館協会）の事例紹介がされたが、「変革する（transform）」という言葉キーワードに、アメリカの図書館はサービスを展開しているという話があった。図書館に限らずどの機関、企業も時代の変化にいち早く対応できなければ、世間からあつと言う間に取り残されてしまうだろう。そして、ビジネス支援図書館推進協議会理事長の常世田良氏の講義では、考えることをせず、組織に従うことしかしてこなかった地方公務員の話があった。「何をしたらこの現状を改善できるのか」など、常に自分の頭で考えて行動する大切さを再認識させられた。

とくに現代のような閉塞感のある社会は、図書館や学校、行政機関、企業等が個々の力だけで成長するには限界があるだろう。「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあるように、今まで深く関わり合いのなかった相手と積極的に連携をすることで、新しいものが生まれる可能性があると考え。図書館がビジネス支援を行うことは、「変革」を起す第一歩となることを願っている。

最後に、本レポートを作成するにあたり、有益なご助言をいただいたEグループの皆様  
に深謝する。

#### 【注】

(1) 岐阜県. “「清流の国ぎふ」創生総合戦略（平成 29 年 7 月改訂版）”. <http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/keikaku-kaikaku/chiho-sosei/c11122/index.data/sougousennryaku2907.pdf>, p. 8. (参照 2018-2-25).

(2) 岐阜県図書館. “岐阜県図書館の運営方針 平成 26 年度～平成 30 年度”. <https://www.library.pref.gifu.lg.jp/gaiyo/unei/unei26-30.pdf>, (参照 2018-2-25).

(3) 岐阜県教育委員会. “第 2 次教育ビジョン（平成 26 年度～平成 30 年度）”. [http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/kakushu-iinkai/kyoiku-iinkai/17765/seisaku/index\\_6097.data/2nd-vision-all.pdf](http://www.pref.gifu.lg.jp/kensei/kakushu-iinkai/kyoiku-iinkai/17765/seisaku/index_6097.data/2nd-vision-all.pdf), p. 98. (参照 2018-2-25).

(4) 毎日新聞「県立高校入試 学区廃止全県 1 区」2017 年 7 月 12 日付朝刊, 13(27).

(5) 岐阜県教育委員会. “平成 30 年度 入学者選抜制度に関する変更及び学科改編等について”. [http://www.pref.gifu.lg.jp/event-calendar/c\\_17765/nyuushihenkou.data/nyushi-gakkakaihen.pdf](http://www.pref.gifu.lg.jp/event-calendar/c_17765/nyuushihenkou.data/nyushi-gakkakaihen.pdf), (参照 2018-2-25).

(6) 日本政策金融公庫. “高校生ビジネスプラン・グランプリとは”. <https://www.jfc.go.jp/n/grandprix/about.html>, (参照 2018-2-25)

(7) ビジネス支援図書館推進協議会編. “図書館におけるビジネス支援サービス”. 第 16 回ビジネス・ライブラリアン講習会テキスト. ビジネス支援図書館推進協議会, 2017, p. 30-40.

(8) 坂本光司. “日本でいちばん見学者が感動する工場”. 小さくてもいちばんの会社: 日本人のモノサシを変える 64 社. 講談社, 2012, p. 228-230.

(9) 岐阜県図書館. “岐阜県図書館 平成 29 年度アクションプラン”. <http://www.library.pref.gifu.lg.jp/gaiyo/unei/action29.pdf>, p. 4. (参照 2018-2-25).

#### 【参考文献】

- ・ 神代浩. 困ったときには図書館へ: 図書館海援隊の挑戦. 悠光堂, 2014, 207p.
- ・ 神代浩, 中山 美由紀. 困ったときには図書館へ 2: 学校図書館の挑戦と可能性. 悠光堂, 2015, 206p.
- ・ 坂本光司. 日本でいちばん大切にしたい会社 2. あさ出版, 2010, 254p.